

西真寺 寺報

平成三十一年 春号

住職のつぶやき

慈光照護のもと、ご門徒の皆様にはますますご健勝にて念仏相統に御精励のこととお喜び申し上げます。

この度、西真寺としてはじめて竹灯籠に参加し、ご門徒の皆様方をはじめ、たくさんの方のボランティアに支えられながら、光の持つ不思議な力に包まれながら、いのちの響きと共に秋のひと時を過ごさせて頂き、誠に有難うございました。来年以降も恒例の行事として続けさせて頂く所存でありますので、引き続きご理解の上、ご指導の程よろしくお願いいたします。

また、報恩講においても引き続きのお参りを賜り、親鸞聖人のみ教えに出遭えた喜びを声明を通して、しつらえさせて頂きましたこと、大変有難く頂戴いたしました。

さて私事ですが、前住職前坊守の三回忌の後、首の付け根に違和感を覚え、耳鼻科に受診したところ、甲狀腺に4センチの瘤が見つかり、九月の中旬に新潟大病院にて摘出手術をいたしました。お陰様で声帯を確保でき、リハビリも順調に推移しております。

三五歳で三回目の倒産を経験してからの約二十年間、僧侶として目まぐるしく歩いて人生を歩んで来たことに立ち止まり、来年からは少しゆっくり歩いて、周りの景色や大切な人々との関わりを味わいながら生きていくつもりであります。この度の手術を通じて、生老病死の課題に向き合う縁を頂き、日々の生を大切に生きていく心を賜りましたこと、うれしく感じております。

舞南阿弥陀仏

釋直徳

■影を内に観るか外に観るか①

1. 投影

毎年節分の日になると一般的に「鬼は外、福は内」と叫びながら、鬼の仮面を被った人に向かって豆を投げます。だいたい、父親が鬼の役になり母親と子供たちが、日ごろの不満も込めて投げかけることが多いようです。この風習は、宮中の年中行事の「追儺（ついな）」から由来しています。追儺は、悪鬼を払い厄病を除く儀式で、家庭に憑く悪霊や鬼を追い払い退治するという行事なのです。

また明恵による「光明真言」にも、砂に加持し、それを死骸に撒くことで、穢れや罪業を浄化する埋葬儀礼として勧められていました。私は毎年、節分の行為や悪の排除に対する疑問を抱きながら、子供たちには本当は「鬼は内、福は内」なんだよと教えています。そもそも鬼や悪という概念は人間が無意識に創り出したものであり、我々の心の深淵に内在するものではないでしょうか。この人間の心理的なメカニズムは、「投影」という概念を用いることで説明ができます。

投影とは、人格の受け入れがたい要素や情動、イメージを他人に無意識に投げかけることで、他人事のように見ることが可能となり、傍観者になることで自分を誤魔化すことができる心のメカニズムであります。この現象には両価性があり、逆に自分がこれまで生きてこなかったイメージあるいは、人格にある良い要素や価値観が投影されるのです。投影により、破壊的で悪い影の人格から身を守ることもあり、基本的には人間の不安に対する防衛機能と考えられています。

尚、責任転嫁の「転嫁」の意味は、自分の罪過、責任を他人になすりつけること、あるいは心や感情が他の対象にも及んでいくことから、「投影」と似ている点があると思われれますが、意味合いとしては、

意識的に操作している感が強く、転移についても感情移入と比較すると意識の観点より無意識的です。

投影は、自分で気づかないうちに、一時的に他人より自分を優位にし、自らが善人や勝者になることで安心を得る無意識なはたらきです。この現象の特徴としては、両価性、呪術性、忘却性、優位性、独善性、権威性、閉鎖性、差別性、排他性、秩序性が見受けられ、集団的に伝染することからイデオロギーを生み、戦争を引き起こす要因にもなると考えられます。(次号に続く)

■神道と仏教の関係①

1. はじめに

今、世界で最も注目されている科学者である落合陽一(筑波大学学長補佐、準教授)が『日本再興戦略』の中で、「藤原不比等は、国民が天皇を信仰するように『日本書紀』や『古事記』を書き直しました。イザナギやイザナミの話を加えて、天皇をその子孫とする神話をつくりました。いわば、教義や神話を国策として編纂したようなものです。(中略)日本では、統治者と国が日本誕生についての神話を編集し、イザナギ、イザナミという神の物語を編み、その子孫が天皇であるという神話の編纂を行ったのです」と論じています。

この政権の悪だくみによる史観については既に多くの学者が説いています。ほとんどのの方が知らない歴史観に留まっているのは、何故でしょうか。この国家が、国民を支配する方策として宗教を利用し続けているからであり、未だに政教分離の原則と信教の自由が私たち日本人に根付いていないからであり、靖国問題の議論が深まらない原点でもあります。また、仏教との関わりを抜きにしてこの史観を論ずる

ことはできません。

日本を知る上で、さらに自分自身を知る上において、大変重要な問題を含む神道と仏教の関わりについて考えてみようと思います。

2. アマテラス

天照大神を祭る伊勢神宮は、もともと太陽神を祭神とする一地方社にすぎませんでした。しかし天武天皇の政治観念により、天皇位を神格化させる為、皇祖神を祭る国家神社として、急激な上昇をもたらしました。国家権力が形成したアマテラスの絶対的な太陽神のイメージには、仏教の影響があります。

アマテラスについて田村園澄によれば、人間の装いをして、自己の言葉を持ち、自己の国をもつ特徴があり、それまでの「国神」とは異なることから、天照大神の発想は、『仏教』にもとづく指摘し、天照大神の出現に、『帝王神権説』などを説く『金光明経』が影響を与えたと説明しています。(次号に続く)

■編集後記

三一年度春号から新たに「影を内に観るか外に観るか」と「神道と仏教の関係」の連載をはじめました。二つとも大変難しい問題に向き合いながら出来るだけわかりやすく述べさせて頂きますが、もし分りにくい内容がありましたら、メールで、お問い合わせください。

合掌 本荘 直広

■西真寺 行事のご案内

新年会

京都本山参詣旅行

二月二十四日(日曜日)

十月十六日から二泊三日